

『美しい山桜』

もろともに あはれと思へ山桜 花よりほかに 知る人もなし

さきのだいそうじょうぎょうそん
前大僧正行尊

[現代訳] 山桜よ、私がおまえを愛しく思っているようにおまえも私のことを愛しく思っ
てほしい。花より他には私の気持ちを分かってくれる人もいないのだから。

今年は、マスクの着脱が自己判断となり、コロナ禍の規制が解除され、さくらまつり
などのイベントがもどって来ました。よかったですね。

日本人は、昔から桜(命)を見ると美しいというDNAが刷り込まれているようです。

さて、平安時代後期に生きた行尊も、吉野の山奥・大峰(霊山)での厳しい修業中、
ふと見つけたひっそりとひとり凜と咲く美しい山桜の花(命)に感動し、山桜の花に孤独
でつらい我が身を自己投影し、歌を詠んでいます。

行尊は、そんな山桜になぐさめ励まされ、孤独でつらい修行を乗り越えて行ったこ
とと思います。花(命)と、こんな接し方もあるのですね。

山陽小野田かるた協会 松永 進